

差が出る 白内障手術

－ 眼内レンズ編 －

Synergy

Simplicity

Toric II



宮田眼科病院

座長

宮田 和典 先生

1984年 久留米大学医学部卒業
1984年 東京大学医学部眼科入局
1986年 東京大学医学部助手
1991年 東京大学医学部眼科講師(1991年～1997年)
1991年 医学博士(東京大学)
1994年 カリフォルニア大学サンフランシスコ校留学
1997年 医療法人明和会宮田眼科病院副院長
1998年 東京大学医学部眼科非常勤講師(1998年～2018年)
1999年 医療法人明和会宮田眼科病院院長
2000年 宮崎大学(前宮崎医科大学)臨床教授
2008年 医療法人明和会理事長 宮田眼科病院院長

眼内レンズの評価方法は、安全性や素材とデザインの時代から技術進歩により、長期安定性や付加価値が加わり、より高いクオリティーが求められる時代へと進化した。また、眼内レンズ挿入も小切開創が当たり前となり、簡便性と再現性が求められる。

本セミナーでは眼内レンズデリバリーシステムと新たなデザインによるToric眼内レンズ、また昨年新たに新設された選定療養の対象となるAMO (Johnson & Johnson) 社の最も新しい多焦点眼内レンズについてご講演いただく。

AMO社の新しいインジェクターについては三愛眼科 榎本大作先生より、レンズ素材の安定性や挿入時のコツなど、ビデオ映像を交えてご解説いただく。Toric眼内レンズについては井上眼科 井上康先生に新旧のToric眼内レンズの回旋比較と、Toric眼内レンズ適応の考え方、有用性についてご講演いただく。そして選定療養対象の多焦点眼内レンズについては金沢医大 佐々木洋先生にお願いする。すでに新しい多焦点眼内レンズが先行発売されている国では高評価を得ているので非常に楽しみである。

本セミナーが明日からの製品選択の一助となれば幸いである。



三愛眼科

TECNIS Simplicityが
手術にもたらす七色の変化？

榎本 大作 先生



井上眼科

TECNIS Toric IIは
進化したのか？

井上 康 先生



金沢医科大学

連続焦点型IOL TECNIS
Synergyの早期臨床報告

佐々木 洋 先生

20210129 Leaflet

本会ランチョンセミナーは
整理券制となります。

配布日時：1月29日(金) 8:00～11:30(※無くなり次第、終了)
配布場所：国立京都国際会館 1F 第8会場 (Room D) 前

※飲食数には限りがございますので、予めご了承ください。※会場には整理券をお持ちの方から優先的にご入場いただけます。※整理券は、セミナー開始と同時に無効となります。

TECNIS Simplicityが手術にもたらす七色の変化？

樫本 大作 先生 (三愛眼科)

2001年 高知大学医学卒業
大阪大学医学部眼科学教室入局
大阪労災病院
2006年 大阪労災病院眼科医長
2007年 大阪鉄道病院眼科医長
2011年 京都ルネス病院眼科医長
2018年 三愛眼科院長

昨年AMO (Johnson & Johnson) 社は、術後視機能に定評あるTECNISを搭載した新しい眼内レンズプリロードデリバリーシステム『TECNIS Simplicity』をリリースした。白内障手術の治療として超音波乳化吸引を軸にした術式展開が主流になって既に四半世紀が経ち、術式は様々な流派に分かれて成長し、それぞれの流派が技術の極みに達している。その中で使用眼内レンズの選択は本来のレンズ性能のみならず、挿入方法や眼内での挙動などにも評価を与えて行われており、これもまた術者によって十人十色である。「白内障手術にこれ以上の進化は必要なのか」、もちろん答えはノーであり、これからも各手技にイノベーションを加えてより良い患者様の未来に貢献するべきである。TECNISの新しい相棒となる新型インジェクターが手術を受けられる患者様たちにどのような福音をもたらすのか、私なりの使用経験に基づいて皆様にお話ししたい。

TECNIS Toric IIは進化したのか？

井上 康 先生 (井上眼科)

1983年 愛媛大学医学部卒業
1987年 岡山大学医学部眼科大学院卒業
1987年 玉野市民病院眼科医長
1991年 井上眼科開業
1996年 医療法人井上眼科理事長
1999年 医療法人眼科康誠会に改組
2006年 香川大学非常勤講師
2014年 岡山大学眼科臨床教授

白内障手術手技の進歩には著しいものがあり、一部の難症例を除くと手技自体による結果不良症例は限りなく減少しつつあると考えられる。一方で、眼内レンズの進化により近年の白内障手術には屈折矯正手術としての要素が高まってきている。完璧に手術を終えても、眼内レンズの選択を誤れば高い患者満足度を得ることはできない。より正確な度数計算、角膜乱視矯正および的確な老視対策が求められるようになってきている。白内障手術の際に眼内レンズで角膜乱視を矯正できるトーリック眼内レンズの登場は画期的なものであった。その後、角膜乱視の評価方法、正確な目標軸への挿入固定などにおいて確実な進歩を遂げてきている。本セミナーでは従来から指摘されていたTECNIS Toric眼内レンズの術後回旋について、今回改良版として発売されたTECNIS Toric II眼内レンズとの比較の結果について報告するとともに、的確な矯正度数選択のための角膜乱視評価方法についても述べたいと考えている。

連続焦点型IOL TECNIS Synergyの早期臨床報告

佐々木 洋 先生 (金沢医科大学)

1987年 金沢大学卒業
1987年 自治医科大学眼科学教室入局
1991年 米国オーランド大学眼研究所研究員
1993年 自治医科大学眼科学教室助手
1996年 金沢医科大学眼科学講座講師
2005年 金沢医科大学眼科学講座教授
2007年 中国医科大学客員教授
2009年 東北文化学園大学視覚機能学専攻客員教授
2018年 特定非営利活動法人
紫外線から眼を守るEyes Arc理事長

多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術が先進医療から除外され、新たに選定療養という枠組みでの診療が開始され10か月が経過した。医療技術に対する選定療養導入に賛否の声も多く、またコロナ禍という大変な社会情勢下での制度移行に我々眼科医も戸惑いながら、手探りで診療が続いている。このような環境下においても、多焦点眼内レンズ (IOL) の進化は続いており、従来の二焦点IOLから焦点深度拡張型IOL、そして三焦点IOLと本邦でも症例に応じ選択肢が広がっており患者様の満足度向上に寄与してきた。そして、今春よりAMO (Johnson & Johnson) 社から新たにTECNIS Synergyの国内導入が発表された。TECNIS Synergyは海外において「Continuous-Range-of-Vision：連続焦点型」と評されている。2焦点でも3焦点でもなく、EDoFの技術とMultifocalの技術を融合し、遠方から手元まで視力の落ち込みが少なく、暗所においても高い視機能を提供するとされている。しかし、2019年のESCRSで披露されたこのIOLの臨床報告はまだ多くなく、評価ができるのはこれからである。当院ではこの新しいIOLを全国への導入に先駆け臨床使用した。TECNIS Synergyの特長と早期臨床成績、患者様への説明方法や注意点なども含め当院での経験をお伝えしたい。